

非常用品箱を 高田学苑贈る

津市に

津市の学校法人高田学苑が二十五日、高田短大と高校、中学で備蓄する非常用品箱のうち、今春の卒業生分で不要になった約百六十個を、市内の児童養護施設などの備蓄用に寄贈した。

高校の生徒会役員七人が市役所を訪れ、前



前葉市長(左)に箱と目録を手渡す生徒会長の森山さん(右)ら役員＝津市役所で

葉泰幸市長に手渡した。

箱には、一人分ずつ缶詰パンや水、簡易トイレなど九個が入っている。三年前から生徒、学生に一個ずつ割り当てて約三千人分を備蓄。卒業時にも賞味期限が残っているため卒業生から寄贈を募り、今年は約千人分を集めた。市を通じて、児童養護施設と乳児院七施設に配る。

同高生徒会長の三年、森山和希さん(右)は「役に立てる実感がうれしい。箱の役割を知ってもらい、周囲の友達にも寄贈を勧めたい」と話していた。前葉市長は「卒業後に校外でも助けになるのが素晴らしい」と礼を述べた。(松崎晃子)